

第 16 回 Pitch to the Minister 懇談会“HIRAI Pitch” 議事概要

1. 開催日時・出席者等

- 日時：平成 30 年 12 月 13(木)11:00～12:00
- 場所：中央合同庁舎 8 号館 10 階 平井国務大臣室
- Pitch テーマ：空の産業革命と利活用に向けた環境整備
- 招へい者：増本 衛(ますもと まもる) 株式会社トルビズオン代表取締役社長
- 出席者：平井国務大臣、河内事務次官、幸田内閣府審議官、三輪 CIO、神成副 CIO、三角副 CIO、住田知財事務局長、行松審議官(宇宙)、石井企画官(科技) 寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

2. 増本社長からの説明

- トルビズオン社では、ドローン(小型無人機)航行のための上空使用权のシェアリングを推進するためのプラットフォームとして「sora:share」というサービスを開始している。これは、土地所有者が同サービスに土地情報を登録し、空域の利用を希望する者との間で飛行する権利を得るための仲介を行うものである。
- sora:share の利用によって、自治体にとって権利情報管理のデジタル化による利便性向上、観光客誘致によるインバウンド需要の拡大、防災時等のドローン利用促進などの効果が見込める。
- サンフランシスコにて開催された企業家向け大会にて sora:share の紹介をしたところ、「ムーンショット(実現困難であるが、実現することで大きな効果がもたらされ得る壮大な目標・挑戦)」であるとの高い評価を受けた一方で、サービスを展開する国の関係機関との連携が不可欠とのことであった。

3. 質疑応答・議論

- ドローンの航行については目視の要否や無線局の設置など、各種規制と密接に関連する話題であるため、サービスの展開に当たってはサンドボックスの活用なども念頭に置くべきではないかとの意見があった。
- ドローンの航行によって利用者の情報収集の可能性が広がることや、アメリカでは私有地に侵入したドローン自体が撃ち落とされることもあり、様々なリスクが想定されることから、ドローンを活用したビジネスを議論するに当たってはセキュリティの観点も必要であるとの意見があった。
- 空域のシェアリングというのは極めて画期的なアイデアであるが、スタートアップとして事業を展開することになるため、APIも活用しつつ、システム的にも人的にも適切につながり、投資を呼び込む努力が必要であるとの意見があった。

(了)

(速報のため事後修正の可能性あり)